



ニュースレター

2026年2月初旬発行

今号のトピックス

◆新理事長からの挨拶

岡山 久代 先生（筑波大学 医学医療系 看護理工学 ウィメンズヘルス看護学 教授）

◆看護理工学会 次世代委員会

第6回ニーズ解釈体験型ワークショップ報告

—看護現場の困りごと「ベッド上での食事支援」を正しく捉えよう—

篠崎 真良 先生（産業技術総合研究所 人間社会拡張研究部門 研究員）

◆第13回看護理工学会学術集会開催報告

平井 慎一 先生（立命館大学 理工学部 教授）

◆第14回看護理工学会学術集会メッセージ

次大会長 赤瀬 智子 先生（横浜市立大学 大学院医学研究科・医学部 教授）



◆新理事長からの挨拶

岡山 久代 先生

(筑波大学 医学医療系 看護理工学 ウィメンズヘルス看護学 教授)

「看護理工学の未来をともに育む」

看護理工学会は、初代理事長の真田弘美先生が「看護理工学」という新しい学問領域の基盤を築き、種をまかれたことから始まりました。続く第2代目理事長の須釜淳子先生は、その芽を丁寧に育て、着実な成長へと導かれました。そして今、私は第3代目理事長として、そのバトンを受け取りました。成熟した芽をさらに大きく育て、花を咲かせることが私に課せられた使命です。

看護と理工学の融合は、人々の健康と生活の質を高める未来志向の挑戦です。花を咲かせることは単なる成果の象徴ではなく、未来へつながる新たな命を生み出すことを意味します。助産師である私にとって、この使命は深い意味を持っています。

この学問領域の発展に向けて、筑波大学の私たちの研究グループは、日本で初めて（つまり世界で初めて）「看護理工学」という名称を研究グループ名に掲げ、学際的な研究を進めてきました。看護理工学は、看護の知と理工学の技術を融合させ、現場の課題を解決するための新しい価値を創造する分野です。センサー技術やAI、ロボティクスなど、理工学の進歩を看護に取り込み、より安全で質の高いケアを実現することを目指しています。

今期は、学会の基盤をより安定させるための取り組みを進めるとともに、研究成果を広く発信できる環境づくりを目指します。英文誌の創刊や和文誌の充実を図り、国際的な情報発信力を高めます。また、学生や若手、研究者、臨床で活躍される方々、企業の皆さまとのつながりを深め、学会を「気軽に参加できる場」にしていきたいと考えています。こうした協働が新しい技術やサービスの創出につながり、看護理工学の発展に寄与すると信じています。

さらに、他分野との交流を積極的に進めることで、看護理工学の可能性を広げ、未来に向けた新しい価値をともに創り出していきたいと思います。

これからも、皆さまの温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。どうぞお気軽に学会に関わっていただき、一緒に未来をつくっていきましょう。

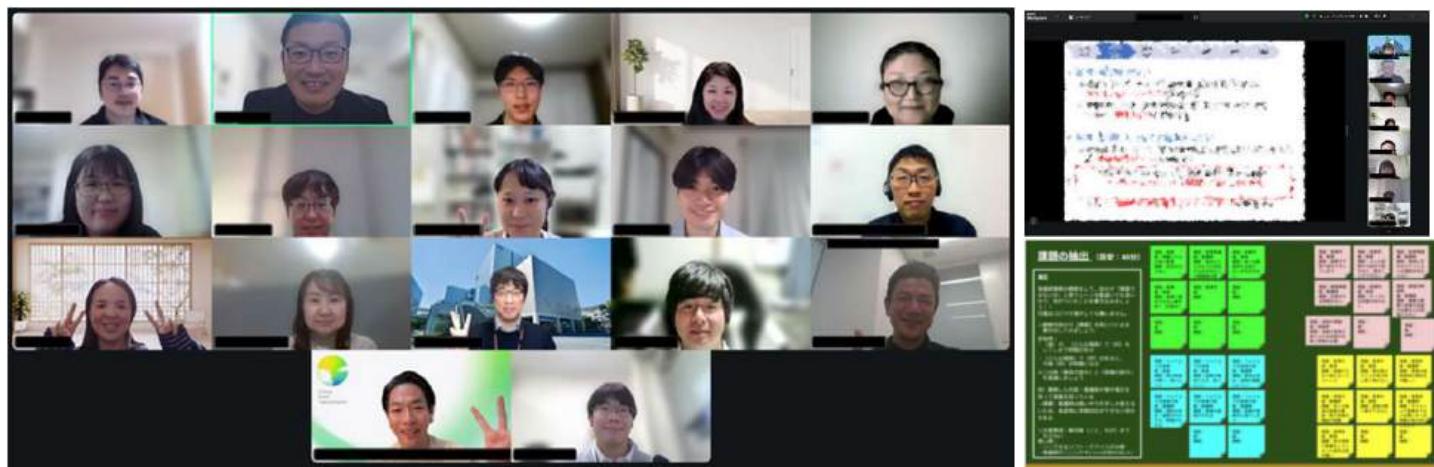


◆看護理工学会 次世代委員会 第6回ニーズ解釈体験型ワークショップ報告 —看護現場の困りごと「ベッド上での食事支援」を正しく捉えよう— 篠崎 真良先生（産業技術総合研究所 人間社会拡張研究部門 研究員）

2025年12月20日(土)に第6回ニーズ解釈体験型ワークショップをオンラインで開催し、看護系8名、工学系8名、企業2名、計18名(次世代委員含む)の方にご参加いただきました。看護理工学会次世代委員会では毎年「ものづくり体験ワークショップ」と「ニーズ解釈体験型ワークショップ」という看護・工学・企業の多職種参加型のワークショップを企画しています。「ものづくり体験ワークショップ」では、課題整理・企画・プロトタイプ製作と、ものづくりの一連の流れとともに連携相手の課題の見方・考え方を学びます。ニーズ解釈体験型ワークショップでは「課題整理」を深堀し、看護業務の観察から根底の課題を特定し、課題に対して「何を変えればよいのか」を定義する思考法を学びます。

今回は「ベッド上での食事支援」をテーマに設定し、病院に勤務する看護師から作業工程や看護師として大切にされていることを参加者に共有いただきました。グループワークでは、いただいた情報から各参加者の視点で課題を抽出し、課題に対して「何を変えれば良いのか」を定義する「ニーズステートメント」を作成しました。最後の発表会では、作成経緯も含めて各グループで作成した「ニーズステートメント」を全体に共有しました。同じテーマであっても、課題の捉え方によって「ニーズステートメント」が異なり、モノづくりの方向性が変わることを実感いただきました。どの職種の参加者も難しいと感じるなかで「課題を具体化することが、解決法を生み出すために重要であることを改めて理解できた。」という感想をいただきました。

このワークショップで、私自身も看護理工学研究の推進には、医療従事者がもつ潜在的なニーズを引き出すことが重要であることを再認識しました。今後もワークショップで皆さんと看護理工学の推進に必要な思考を深めていけることを楽しみにしております。



第6回ニーズ解釈体験型ワークショップ 記念写真

ワークショップの内容の説明と
オンラインでのグループワーク

【看護理工学会次世代委員会 委員】

吉田 美香子、桑名 健太、雨宮 歩、金澤 悠喜、北村 言、楠田 佳緒、武石 陽子
長江 祐吾、三原 陽一郎、吉本 佳世

【看護理工学会次世代委員会 委員・異分野連携ファシリテータ育成WG メンバー】

因 直也、篠崎 真良、武井 裕輔、姫野 雄太

◆第13回看護理工学会学術集会開催報告

大会長 平井 慎一 先生 (立命館大学 理工学部 教授)

第13回看護理工学会学術集会は、「看護理工「学」の確立を目指して：社会課題の解決を目指す看護理工学」をテーマとして、2025年11月8日（土）・9日（日）に、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されました。

開会式に続いて、立命館大学総合科学技術研究機構の定藤規弘教授より、「人間のこころと身体・社会とのつながり「社会的痛み・共感・向社会行動 神経科学的アプローチ」」という表題で特別講演を頂きました。次に、二日間に渡って、101件の演題が四つのセッションでポスター発表されました。ポスター発表と同じ部屋で、6件の企業展示が行われました。ポスター発表、企業展示とともに、活発な説明と質疑が成されていました。また、医療法人AGRIE、株式会社MTG主催の2件のランチョンセミナー、AIに関する2件のハンズオンセミナー、口腔介護シミュレータに関するシンポジウムが開催されました。学術委員会WGワークショップでは、3つのワーキンググループからの活動が報告されました。懇親会はボーリング大会で、軽食とともに和気あいあいとボーリングを楽しむことができました。

閉会式において、以下4件の優秀演題賞が表彰されました。

- 篠崎真良 穿刺手技における触診の定量化のためのグローブ型接触力計測デバイスと可視化システムの試作評価
- 金澤悠喜 乳幼児を対象とした新たな採尿法の開発～新旧採尿法による成人の尿検査値の比較～
- 有松夏子 自然言語処理を用いた高齢者と家族の日常会話類似度と認知機能との関係
- 高橋聰明 集中治療環境における入室後24時間データを用いた集中治療環境における肺塞栓症発症リスクの時系列予測モデル

本大会の参加者の総数は279名でした。多くの皆様に参加いただき、感謝申し上げます。「ニュースレター16号 増刊号」に多くの写真が掲載されておりますので、そちらもご覧ください。

第13回看護理工学会学術集会
The 13 Annual Meeting of the Society for Nursing Science and Engineering

2025年11月8日（土）・9日（日）
立命館大学BKCキャンパス
ローム記念館



◆第14回看護理工学会学術集会開催に向けて

次大会長 赤瀬 智子 先生

(横浜市立大学 大学院医学研究科・医学部 教授)

この度、第14回看護理工学会学術集会を2026年10月24日(土)・25日(日)の両日に、横浜市立大学福浦キャンパス(医学部)において開催する運びとなりました。

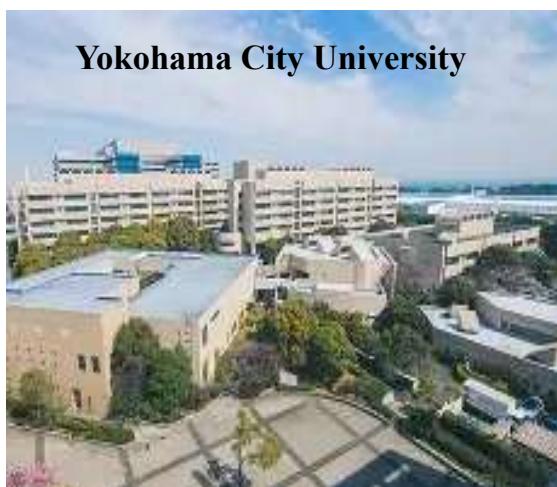
本学会は2013年に設立し、今に至るまで、看護学、医学、工学・理学とその周辺領域の各専門分野が連携しながら、未来へのイノベーションを創造し、発信してきました。

第14回学術集会は、「究(きわむ)」、そして、看護理工学から本質的なケアを創るというテーマとしました。

学問を追究してきた各々の分野の専門家(究人:きわみびと)をお招きします。その専門家の方々のご講演やセミナーから、ご参加くださる皆さま各々が新たな視点や刺激を受けることで、ご自身の分野をさらに究んでいってほしい、それが人々に必要な本質的なケアを創っていくといいなと思っています。そして世の中のすべてのひとの健康かつ生活が少しでもハッピーになる!につながっていくことを願っています。

また、地域住民のための「健康と生活から誰しもがハッピー」となる市民公開講座や、学部の垣根を超えた学生たちの集いとして、リサーチマインドを培う未来道場も開催したいと思っています。私が看護を考えるとき、私が教育や研究を考えるときの根本の1つは、ヒトの身体の構造と機能にあります。そのため、本学術集会においては、まもなく100年を迎えるとしている歴史ある横浜市立大学医学部として、ヒトの身体を標本から学ぶ機会も皆さんにご紹介する企画も考えております。また、懇親会などは、1854年、ペリー来航により国際都市となった横浜の歴史と港を感じていただきたく企画も考えております。

私たちは、「究(きわむ)」、そして、看護理工学から本質的なケアを創るというテーマと、横浜の歴史と魅力を大事に、ご参加くださる皆さまにとって、有益な2日間となりますよう、実行委員および横浜市立大学関係者一同、お待ち申し上げております。





看護と理学・工学、産業の融合、
超領域連携で築く未来へのイノベーション。

学会からのお知らせ

看護理工学会の最新論文は、
J-STAGEおよび学会HPで公開されています。
是非ご覧ください。

J-STAGE[看護理工学会誌]
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jnse/-char/ja/>

看護理工学会HP
<http://nse.umin.jp>

ニュースレター発行

広報委員会

委員長：浅野 美礼 (信州大学)
委員：大貝和裕 (石川県立看護大学)
内藤 紀代子 (びわこ学院大学)
鈴木雅登 (兵庫県立大学)
高橋聰明 (横浜市立大学)
青木 真希子 (筑波大学)
寺澤 瑛利子 (大阪大学)

看護理工学会事務局

〒169-0072

東京都新宿区大久保2丁目4番地12号
新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業部内
TEL：(03) 5291-6231
FAX：(03) 5291-2176
E-mail：nse-society@umin.ac.jp

賛助会員（五十音順）

アルケア株式会社
グローバルマイクロニクス株式会社
株式会社ケアコム
ケアライフ有限会社
株式会社ケープ
サラヤ株式会社
株式会社春恒社
株式会社照林社
大王製紙株式会社

ホーム&パーソナルケア
国内事業部マーケティング本部
ディピューラメディカル
ソリューションズ株式会社
テルモ株式会社ホスピタルカンパニー
収益改善室管理
ニチバン株式会社
ニプロ株式会社
パラマウントベッド株式会社

富士フィルムメディカル
株式会社超音波事業部
株式会社ベーテルプラス
メンリックヘルスケア
株式会社ウンドケア事業部
株式会社モルテン
ユリケア株式会社